

平成27年度
教育に関する事務の管理及び執行の
点検及び評価報告書

平成28年8月24日
長岡市教育委員会

教育に関する事務の管理及び執行の点検及び評価について

1 点検及び評価の趣旨

平成 19 年 6 月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が改正され、平成 20 年度から教育委員会は毎年度、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表することが義務づけられました。

本報告書は、効果的な教育行政の推進を図るとともに、市民への説明責任を果たすために、平成 27 年度の長岡市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行った結果を、長岡市教育委員会事務評価委員会の意見等を付して、報告するものです。

【参考】地方教育行政の組織及び運営に関する法律（関連条文抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 点検及び評価の方法

(1) 点検及び評価の対象

点検及び評価は、長岡市教育委員会が執行している事務・事業のうち、「長岡市教育振興基本計画」（平成 23 年 4 月策定）に掲げた施策を中心に行いました。

(2) 点検及び評価の手順

平成 28 年 4 月から 8 月にかけて、平成 27 年度に長岡市教育委員会において執行した事務について、次の手順で点検及び評価を行いました。

教育委員会事務局における点検の実施



事務評価委員会による教育委員及び事務局職員へのヒアリング



事務評価委員会による点検及び評価



教育委員会による評価報告書の決定



市議会への報告及び公表

長岡市教育委員会事務評価委員会 委員

委員長 結城 和 廣 (学校教育関係)

副委員長 青柳 良 一 (社会教育関係)

委員 江口 由 美 (学校教育関係)

委員 高野 真 規 (子育て支援関係)

【目 次】

I 教育委員会会議の開催及び審議状況等について

1	教育委員会4月定例会（平成27年4月24日開催）	1
2	教育委員会5月定例会（平成27年5月26日開催）	1
3	教育委員会6月定例会（平成27年6月26日開催）	2
4	教育委員会7月定例会（平成27年7月22日開催）	2
5	教育委員会8月定例会（平成27年8月28日開催）	3
6	教育委員会9月定例会（平成27年9月29日開催）	3
7	教育委員会10月定例会（平成27年10月27日開催）	4
8	教育委員会11月定例会（平成27年11月30日開催）	4
9	教育委員会12月定例会（平成27年12月17日開催）	5
10	教育委員会1月定例会（平成28年1月21日開催）	5
11	教育委員会2月定例会（平成28年2月12日開催）	6
12	教育委員会2月臨時会（平成28年2月26日開催）	6
13	教育委員会3月臨時会（平成28年3月16日開催）	6
14	教育委員会3月定例会（平成28年3月29日開催）	7
15	施設訪問	8
16	教育委員協議会	9
17	総合教育会議	9
○	教育委員会会議等に関する点検・評価及び今後の取り組み等	10

II 教育委員会における事務の点検・評価について

1	生涯健やかで、いきいきと暮らせるまちの実現	11
(1)	子育てを応援する環境の整備	11
○	市民協働による子育て支援の推進（子ども家庭課）	11
○	保育園施設等の整備（保育課）	12
○	児童館・児童クラブ等の整備・運営（子ども家庭課）	12
(2)	子育て支援サービスの拡充	13
○	家庭・地域の子育てを支援する相談体制の整備①（子ども家庭課）	13
○	家庭・地域の子育てを支援する相談体制の整備②（子ども家庭課）	14
○	保育サービスの充実（保育課）	15
○	子育てを支援するサービスの拡充①（子ども家庭課）	16
○	子育てを支援するサービスの拡充②（保育課）	16
(3)	健康づくりへの支援の強化・推進	17
○	母子保健の推進（子ども家庭課）	17

2	人材と文化をはぐくむ人間性豊かなまちの実現	18
(1)	やる気や学ぶ意欲を引き出す教育の推進	18
	(熱中！感動！夢づくり教育の推進)	
○	どの子にもわかる授業の実現①（学校教育課）	18
○	どの子にもわかる授業の実現②（学務課）	19
○	地域の力、市民の力を生かした教育の推進①（学校教育課）	19
○	地域の力、市民の力を生かした教育の推進②（子ども家庭課）	20
○	熱中・感動体験の充実①（学校教育課）	21
○	熱中・感動体験の充実②（教育総務課・中央公民館）	22
○	幼稚園教育・高校教育の振興と就学支援①（保育課）	22
○	幼稚園教育・高校教育の振興と就学支援②（学務課）	23
(2)	子どものサポート体制の充実	23
○	生徒指導の充実（学校教育課）	24
○	特別支援教育の充実（学校教育課）	25
(3)	青少年の健全育成活動の推進	26
○	交流・体験学習環境の充実（子ども家庭課）	26
○	非行防止活動の充実（子ども家庭課）	27
(4)	安全・安心な教育環境の整備	27
○	子どもの安全確保を図る体制の充実（学務課・学校教育課）	28
○	防災・防犯等の安全教育の充実（学校教育課）	28
○	学校施設における安全性の確保（教育施設課）	29
(5)	市民主体の生涯学習の推進	29
○	多様な学習機会の充実①（中央公民館）	30
○	多様な学習機会の充実②（中央図書館）	31
○	多様な学習機会の充実③（科学博物館）	32
○	生涯学習支援体制の整備①（中央公民館）	32
○	生涯学習支援体制の整備②（中央図書館）	32
○	生涯学習支援体制の整備③（科学博物館）	33
(6)	歴史的・文化的遺産の継承及び活用促進	33
○	歴史的・文化的遺産の継承と保存・管理（科学博物館）	34
○	歴史的・文化的遺産の活用（科学博物館）	34
●	教育に関する事務の管理及び執行の点検及び評価について	35

I 教育委員会会議の開催及び審議状況等について

平成 27 年度に教育委員会定例会を 12 回、臨時会を 2 回開催した。その内、2 回は教育委員会事務局以外の施設で開催した。54 件の議案を審議し、協議報告事項は 72 件であった。また、施設訪問を 8 回実施し、14 か所で授業参観・職員懇談・給食試食及び施設内視察を行った。さらに、教育委員協議会を 3 回、総合教育会議を 3 回開催した。

審議の結果は、以下のとおりである。

1 教育委員会 4 月定例会

- 日 時 平成 27 年 4 月 24 日（金曜日）
午後 4 時から午後 4 時 50 分まで
- 場 所 教育委員会会議室
- 傍聴人 0 人
- 議 事 2 件

議案第 35 号	専決処理について（規則の一部改正について）	原案承認
議案第 36 号	附属機関委員の委嘱について	原案決定

- 協議報告事項 6 件
 - ・平成 26 年度教育に関する事務の点検及び評価方針について
 - ・平成 27 年度長岡市成人式について
 - ・平成 26 年度 長岡市公立保育園『わくわく☆おてつだいチャレンジ』
『パクパクお弁当デー』取り組み報告
 - ・長岡市の切れ目のない子育て支援について
 - ・平成 26 年度第 2 回長岡市スポーツ推進審議会会議報告
 - ・平成 27 年度長岡市スポーツ振興事業計画について

2 教育委員会 5 月定例会

- 日 時 平成 27 年 5 月 26 日（火曜日）
午後 2 時 15 分から午後 3 時 10 分まで
- 場 所 大河津小学校 会議室
- 傍聴人 1 人
- 議 事 1 件

議案第 37 号	附属機関委員の委嘱について	原案決定
----------	---------------	------

- 協議報告事項 6 件
 - ・平成 27 年度全国学力・学習状況調査問題長岡市教育委員会分析概要について
 - ・平成 27 年度長岡市成人式について
 - ・長岡市子育て世帯臨時特例給付金支給事業実施要綱の一部改正について

- ・長岡市子育て応援券事業概要について
- ・長岡市災害復興文庫にかかわる刊行物の発行及び活用について
- ・平成27年度第1回社会教育委員会、公民館運営審議会会議報告

3 教育委員会6月定例会

- 日 時 平成27年6月26日（金曜日）
午後4時15分から午後5時30分まで
- 場 所 アオーレ長岡 301会議室
- 傍聴人 0人
- 議 事 2件

議案第38号	長岡市子育て応援券配付事業実施要綱の制定について	原案決定
議案第39号	附属機関委員の委嘱について	原案決定

- 協議報告事項 10件
 - ・平成27年度熱中！感動！夢づくり教育「地域・子ども元気塾助成事業」について
 - ・平成27年度熱中！感動！夢づくり教育「学校・子どもかがやき塾 夢企画事業」について
 - ・平成26年度長岡市の児童生徒の問題行動等について
 - ・教育委員会関係工事等の入札状況について
 - ・「小国地域3小学校統廃合に関する要望書」について
 - ・仕事も子育ても上手くいくコミュニケーション講座の実施について
 - ・平成27年度「思春期向け次代の親育成事業」の実施計画について
 - ・平成27年度「家庭でワクワクお手伝いポスターコンクール」の実施について
- 附属機関会議報告について
 - ・第1回長岡市図書館協議会報告
 - ・第1回長岡市栃尾美術館協議会報告

4 教育委員会7月定例会

- 日 時 平成27年7月22日（水曜日）
午後3時から午後4時35分まで
- 場 所 教育委員会会議室
- 傍聴人 0人
- 議 事 2件

議案第40号	学校統合及び条例改正の申出について（長岡市立学校設置条例の一部改正）	原案決定
議案第41号	平成28年度使用教科書用図書の採択について	原案決定

- 協議報告事項 6件
 - ・6月議会における教育委員会関係の質問事項について
 - ・長岡ホノルル平和交流記念事業 青少年平和交流サミットについて
 - ・平成27年度第1回熱中！感動！夢づくり教育推進会議報告について
 - ・平成27年度ポニー事業について
附属機関会議報告について
 - ・第1回長岡市水族博物館協議会
 - ・第1回長岡市子ども・子育て会議

5 教育委員会8月定例会

- 日 時 平成27年8月28日（金曜日）
午後4時から午後5時5分まで
- 場 所 教育委員会会議室
- 傍聴人 0人
- 議 事 4件

議案第42号	長岡市学校施設長期保全・再生計画（スクールフェニックスプラン）実施計画の策定について	原案決定
議案第43号	平成26年度教育に関する事務の管理及び執行の点検及び評価報告書について	原案決定
議案第44号	補正予算の要求について	原案決定
議案第45号	長岡市教育委員会表彰被表彰者の決定について	被表彰候補者全員適と決定

- 協議報告事項 3件
 - ・今後の学校等訪問について
 - ・小国地域の子ども教育を考える懇談会 会議報告について
附属機関会議報告について
 - ・第2回社会教育委員会、公民館運営審議会

6 教育委員会9月定例会

- 日 時 平成27年9月29日（火曜日）
午後3時30分から午後5時まで
- 場 所 教育委員会会議室
- 傍聴人 0人
- 議 事 4件

議案第46号	長岡市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の確認等に関する要綱の制定について	原案決定
--------	--	------

議案第47号	補正予算の要求について	原案決定
議案第48号	附属機関委員の委嘱について	原案決定
議案第49号	長岡市教育委員会表彰被表彰者の決定について	被表彰候補者全員適と決定

- 協議報告事項 3件
 - ・ 9月議会における教育委員会関係の質問事項について
 - ・ 平成27年度全国学力・学習状況調査結果について
附属機関会議報告について
 - ・ 第1回長岡市文化財保護審議会

7 教育委員会 10月定例会

- 日 時 平成27年10月27日（火曜日）
午後2時から午後3時10分まで
- 場 所 教育委員会会議室
- 傍聴人 0人
- 議 事 2件

議案第50号	専決処理について（規則等の一部改正について）	原案承認
議案第51号	長岡市栃尾美術館美術品収集委員会規則の廃止について	原案決定

- 協議報告事項 1件
 - ・ 家庭でワクワクお手伝いポスターコンクール審査会結果

8 教育委員会 11月定例会

- 日 時 平成27年11月30日（月曜日）
午後3時から午後4時30分まで
- 場 所 教育委員会会議室
- 傍聴人 0人
- 議 事 5件

議案第52号	条例改正の申出について（長岡市子育ての駅条例の一部改正）	原案決定
議案第53号	長岡市児童館の未整備地区における放課後児童健全育成事業実施要綱の廃止について	原案決定
議案第54号	指定管理者指定の申出について（長岡市青少年文化センター）	原案決定
議案第55号	補正予算の要求について	原案決定
議案第56号	平成28年度当初予算の要求について	原案決定

- 協議報告事項 1件
 - ・ 長岡市放課後児童健全育成事業運営費補助金交付要綱の制定について

9 教育委員会 12 月定例会

- 日 時 平成 27 年 12 月 17 日（木曜日）
午後 3 時 30 分から午後 4 時 45 分まで
- 場 所 教育委員会会議室
- 傍聴人 0 人
- 議 事 5 件

議案第 57 号	長岡市教育委員会組織規則の一部改正について	原案決定
議案第 58 号	長岡市子育ての駅条例施行規則の一部改正について	原案決定
議案第 59 号	長岡市子どものための教育・保育給付の支給認定に関する規則の一部改正について	原案決定
議案第 60 号	長岡市地域子育て支援センター事業実施要綱の一部改正について	原案決定
議案第 61 号	平成 28 年度全国学力・学習状況調査への参加について	原案決定

- 協議報告事項 6 件
 - ・ 12 月議会における教育委員会関係の質問事項について
 - ・ 教育委員会関係工事等の入札状況について
 - 附属機関会議報告について
 - ・ 平成 27 年度第 3 回社会教育委員会、公民館運営審議会報告
 - ・ 平成 27 年度第 2 回長岡市栃尾美術館協議会報告
 - ・ 第 26 回長岡市馬高・三十稲場遺跡整備活用委員会報告
 - ・ 平成 27 年度第 2 回長岡市子ども・子育て会議報告

10 教育委員会 1 月定例会

- 日 時 平成 28 年 1 月 21 日（木曜日）
午後 3 時から午後 3 時 45 分まで
- 場 所 教育委員会会議室
- 傍聴人 0 人
- 議 事 1 件

議案第 1 号	長岡市教育委員会表彰被表彰者の決定について	被表彰候補者全員適と決定
---------	-----------------------	--------------

- 協議報告事項 4 件
 - ・ 次期長岡市総合計画（原案）について
 - ・ 平成 27 年度文部科学大臣優秀教職員表彰について
 - ・ 平成 27 年度 長岡市の子どもたちの体力について
 - ・ 川崎保育園・日越保育園の民営化について

11 教育委員会 2 月定例会

- 日 時 平成 28 年 2 月 12 日（金曜日）
午後 2 時 15 分から午後 4 時まで
- 場 所 教育委員会会議室
- 傍聴人 0 人
- 議 事 7 件

議案第 2 号	平成 28 年度長岡市学校教育の共通実践事項について	原案決定
議案第 3 号	条例改正の申出について（長岡市保育園条例の一部改正）	原案決定
議案第 4 号	長岡市立学校通学区域規則の一部改正について	原案決定
議案第 5 号	長岡市柿が丘学園運営規程の一部改正について	原案決定
議案第 6 号	長岡市教育委員会表彰被表彰者の決定について	被表彰候補者適と決定
議案第 7 号	補正予算の要求について（3 月補正予算）	原案決定
議案第 8 号	長岡市教育委員会委員の辞職の同意について	原案決定

- 協議報告事項 5 件
 - ・ 公立保育園民営化に伴う財産の無償譲渡について
 - ・ 平成 28 年度長岡市教育委員会当初予算の概要について
 - ・ 長岡市子育て応援券配付事業の実施結果について
附属機関等会議報告について
 - ・ 長岡市公立学校通学区域審議会報告
 - ・ 平成 27 年度第 3 回長岡市子ども・子育て会議報告

12 教育委員会 2 月臨時会

- 日 時 平成 28 年 2 月 26 日（金曜日）
午後 3 時から午後 3 時 40 分まで
- 場 所 さいわいプラザ 4 階 教育長室
- 傍聴人 0 人
- 議 事 1 件

議案第 9 号	校長、教頭の人事異動の内申について	原案決定
---------	-------------------	------

13 教育委員会 3 月臨時会

- 日 時 平成 28 年 3 月 16 日（水曜日）
午後 3 時から午後 3 時 40 分まで
- 場 所 さいわいプラザ 4 階 教育長室
- 傍聴人 0 人
- 議 事 2 件

議案第 10 号	職員人事について	原案決定
----------	----------	------

議案第11号	臨時代理について（表彰に関することについて）	原案承認
--------	------------------------	------

14 教育委員会3月定例会

- 日 時 平成28年3月29日（火曜日）
午後1時30分から午後4時まで
- 場 所 教育委員会会議室
- 傍聴人 0人
- 議 事 16件

議案第12号	平成28年度長岡市社会教育の基本方針について	原案決定
議案第13号	長岡市教育委員会組織規則等の一部改正について	原案決定
議案第14号	長岡市教育委員会事務決裁規程の一部改正について	原案決定
議案第15号	長岡市ファミリー・サポート・センター事業実施要綱の一部改正について	原案決定
議案第16号	長岡市教育委員会教育長に対する事務の委任等に関する規則等の一部改正について	原案決定
議案第17号	長岡市教職員住宅管理運営規則の一部改正について	原案決定
議案第18号	長岡市教育委員会における障害を理由とする差別の解消の推進に関する対応規程の制定について	原案決定
議案第19号	長岡市教育委員会非常勤嘱託員の任用等に関する要綱の一部改正について	原案決定
議案第20号	長岡市教育委員会一般職非常勤職員の任用等に関する要綱の一部改正について	原案決定
議案第21号	長岡市就学援助事業実施要綱の一部改正について	原案決定
議案第22号	長岡市妊婦健康診査実施要綱の一部改正について	原案決定
議案第23号	長岡市放課後児童健全育成事業実施要綱の一部改正について	原案決定
議案第24号	長岡市放課後児童クラブ実施時間延長事業実施要綱の制定について	原案決定
議案第25号	長岡市私立認可保育所休日保育施行事業実施要綱の制定について	原案決定
議案第26号	長岡市立幼稚園授業料減免要綱の一部改正について	原案決定
議案第27号	附属機関委員の委嘱について	原案決定

- 協議報告事項 21件
 - ・3月議会における教育委員会関係の質問事項について
長岡市が制定する要綱の一部改正及び廃止について
【一部改正】
 - ・長岡市立中学校部活動遠征費補助金交付要綱
 - ・長岡市私立幼稚園等運営費等補助金交付要綱
 - ・長岡市私立認可保育所等運営費補助金交付要綱

- ・長岡市私立認可保育所地域活動事業実施要綱
- ・長岡市私立認可保育所等一時保育事業補助金交付要綱
- ・長岡市私立認可保育所等未満児保育事業費補助金交付要綱
- ・長岡市私立認可保育所等延長保育促進事業補助金交付要綱
- ・長岡市病児・病後児保育事業実施要綱
- ・長岡市教育・保育施設等整備事業補助金交付要綱
- ・長岡市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業者の確認等に関する要綱

【廃止】

- ・長岡市私立認可保育所休日保育施行事業実施要綱
- ・長岡市子育て世帯臨時特例給付金給付事業実施要綱
- ・水道蛇口等金属資材の盗難事件の和解について
附属機関等会議報告について
 - ・第2回熱中！感動！夢づくり教育推進会議報告
 - ・第4回社会教育委員会、公民館運営審議会会議報告
 - ・第2回長岡市図書館協議会
 - ・第2回長岡市文化財保護審議会
 - ・第2回長岡市水族博物館協議会
- ・栃尾美術館開館20周年記念事業実施報告について
- ・寺泊水族博物館の利用促進に関する実験（冬季の中学生以下無料化）の結果について

15 施設訪問

○ 14か所を訪問

【内訳】 小学校5、中学校5、特別支援学校1、その他施設3

- (1) 平成27年5月26日（火曜日）
大河津小学校、寺泊中学校
- (2) 平成27年6月26日（金曜日）
中之島中央小学校、中之島中学校
- (3) 平成27年7月22日（水曜日）
川口小学校、川口中学校
- (4) 平成27年9月29日（火曜日）
宮内中学校、江陽中学校
- (5) 平成27年10月29日（木曜日）
子育ての駅ぐんぐん
- (6) 平成27年11月4日（木曜日）
高等総合支援学校
- (7) 平成28年1月29日（金曜日）
子育ての駅みしまりもり、NPO法人ピュアはーと
- (8) 平成28年2月12日（金曜日）
新町小学校、千手小学校

16 教育委員協議会

○ 3回開催

- (1) 平成 27 年 10 月 27 日（火曜日）教育委員会会議室
 - ・教育大綱（案）について
 - ・長岡版総合戦略について
長岡リジュベネーション～長岡若返り戦略～
- (2) 平成 27 年 11 月 12 日（木曜日）教育委員会会議室
 - ・平成 28 年度新規事業等について
- (3) 平成 28 年 2 月 26 日（金曜日）教育委員会会議室
 - ・次期長岡市教育振興基本計画（素案）について

17 総合教育会議

○ 3回開催

- (1) 平成 27 年 5 月 21 日（木曜日）アオーレ長岡東棟 4 階 第二応接室
 - ・長岡市総合教育会議設置要綱（案）について
 - ・大綱の策定について
- (2) 平成 27 年 7 月 6 日（月曜日）アオーレ長岡東棟 4 階 第二応接室
 - ・大綱の策定について
- (3) 平成 27 年 12 月 11 日（金曜日）アオーレ長岡東棟 4 階 第二応接室
 - ・長岡市教育大綱について

＜教育委員会会議等に関する点検・評価及び今後の取り組み等＞

- 長岡市教育委員会会議規則に基づき、定例会及び臨時会の会議を適正に開催した。
- 会議において、教育や子育て支援に関する新制度の概要や児童生徒の現況を速やかに報告するなど、教育委員と教育委員会事務局の情報共有を進め、審議の活性化に努めた。会議では、議案及び協議報告事項に対し、各委員から積極的な発言があり、十分な審議がなされた。
- 会議録はホームページで公開しており、協議報告事項なども詳しく掲載し、審議の透明性を高めている。
- 新教育委員会制度により創設された総合教育会議を開催した。市長と長岡市の教育について意見交換を行い、今後の長岡市の教育の総合的な施策の基本方針となる教育大綱を定めた。
- 教育委員の意見を教育行政により反映させるため、教育委員協議会を開催した。協議会では、テーマ別に活発な意見交換を行い、各課の施策立案や日常の業務に反映した。
- 各委員が成人式や表彰式などの教育委員会行事、各課の実施事業、学校の周年行事に積極的に出席したり、研修会に参加したりした。
- 学校の授業だけでなく、次代の親育成事業など教育委員会が行っている事業も見学できるように、定例会開催日以外にも学校訪問を行うことにした。
- 学校訪問では、生徒指導や学力など学校運営上の課題を詳細に聞き取り、現場の状況を把握することに努めた。
- 学校訪問の意見交換では、より良い学校づくりに向け、訪問校ごとに教育活動の目標や課題をテーマとして設定し、より深い議論ができるようにした。
- 長岡市総合計画、長岡版総合戦略、教育大綱など、これからの長岡市全体の指針となる大きな計画が策定された。教育委員会としても、長岡市の未来を担う子ども達を総ぐるみで育てていく施策を進めて行く。

II 教育委員会における事務の点検・評価について

平成23年4月に策定した「長岡市教育振興基本計画」に定めた施策を中心に点検・評価を行った。

具体的には、各施策の柱ごとの「基本施策」について、平成27年度における目標値に対する進捗状況を点検するとともに、個別の施策について点検・評価を実施したものである。

点検・評価の結果は、以下のとおりである。

1 生涯健やかで、いきいきと暮らせるまちの実現

(1) 子育てを応援する環境の整備

目 標	基準値 (年度)	目標値 (年度)	平成26年度 達成値	平成27年度 達成値
子育てを応援する世代を越えた交流や子育て支援の輪を広げる。 【子育ての駅の利用登録世帯数（親子、サポーターなど）】	10,292 世帯 (平成21年度)	20,000 世帯 (平成27年度)	20,447 世帯	21,800 世帯
児童クラブを必要とする保護者が利用できる環境を整える。 【児童クラブ数】	40 か所 (平成22年度)	43 か所 (平成27年度)	42 か所	45 か所

■ 施策の内容

【市民協働による子育て支援の推進（担当：子ども家庭課）】

<27年度の取り組み>

- 子育ての駅の運営にあたっては、利用者による「子育ての駅運営委員会」を設置するとともに、様々な年代の市民から「子育ての駅サポーター」として協力を得るなど、市民参加型の施設運営を基本とした。
- 一人ひとりに寄り添った支援を行うため、各子育ての駅に子育てコンシェルジュを配置した。また子育ての駅「ぐんぐん」に統括子育てコンシェルジュを配置した。
- 支所地域の子育て支援機能を強化するため、全支所地域に地域版子育ての駅を整備した。
- NPO法人と協働して、中学3年生を対象に「次代の親育成事業」を実施し、乳幼児や親子とのふれあい等を通じて、命の大切さと子育てや家族関係について学ぶ機会を設けた。

<成果及び今後の取り組み等>

- 平成 27 年度の「子育ての駅」来場者数は、265,843 人であった。(ちびっこ広場 43,112 人、てくてく 152,149 人、ぐんぐん 61,511 人、すくすく 9,071 人) 今後とも市民参加型で施設を運営する。
- 地域版子育ての駅を 6 か所開設 (12 月開設…三島、1 月開設…中之島、越路、山古志、小国、寺泊)、3 か所整備 (平成 28 年 4 月開設予定…和島、与板、川口)。各地域の特色を活かし、地域と連携した運営をする。
- 親子サークル支援を継続し、身近な地域でのネットワークづくりを応援する。
- 今後も継続して、中学生を対象に「次代の親育成事業」を実施する。

【保育園施設等の整備 (担当：保育課、教育施設課)】

<27 年度の取り組み>

- 三和保育園の耐震補強工事を実施した。
- 認定こども園の整備に対して財政的支援を行った。
 - ① 長岡カトリック天使幼稚園の改築
 - ② 長峰幼稚園の改築
 - ③ 鵬第一幼稚園の大規模改修
 - ④ 中島幼稚園の改修
- 私立保育園の整備に対して財政的支援を行った。
 - ⑤ 恵和保育園分園の創設
 - ⑥ みしま中央保育園の大規模改修
 - ⑦ 西部保育園の改修
 - ⑧ 大島保育園の改修
- 小規模保育施設の整備に対して財政的支援を行った。
 - ⑨ ベビールームそらの改修
 - ⑩ マンマのお部屋の改修
 - ⑪ 太陽あおぞら保育園の改修
 - ⑫ ほうゆう保育園の改修
 - ⑬ 長生幼稚園の改修

<成果及び今後の取り組み等>

- 老朽施設等を整備し、安全な保育環境を整えることができた。
- 施設整備により、保育園定員が 270 名増加した。
- 今後も適切な整備を行い、安心・安全な保育環境の整備を推進していく。

【児童館・児童クラブ等の整備・運営 (担当：子ども家庭課)】

<27 年度の取り組み>

- 児童に健全な遊びを与えながら、その健康を増進するとともに、豊かな情

操の形成を目指し、児童館を地域における児童健全育成の拠点とするよう運営した。

- 配慮を必要とする児童の預かり体制を充実させるため、放課後発達支援コーディネーターを配置し、児童厚生員へ助言・指導・相談を行った。

<成果及び今後の取り組み等>

- 千手コミュニティセンターの改築工事完了に伴い、児童館・児童クラブを千手小学校内から千手コミュニティセンター内に戻した。
- 前川小学校校舎増築工事に併せ、前川児童館増築工事を行った。
- 子どもの安全や健全育成の観点から、児童館・児童クラブの施設等の整備を行った。

(2) 子育て支援サービスの拡充

目 標	基準値 (年度)	目標値 (年度)	平成 26 年度 達成 値	平成 27 年度 達成 値
気軽に子育ての不安や悩みを相談できる環境を充実させる。 【親子が集う場所に相談員が出向いて実施した相談回数】	166 回 (平成 21 年度)	200 回 (平成 27 年度)	341 回	302 回

■施策の内容

【家庭・地域の子育てを支援する相談体制の整備①(担当:子ども家庭課)】

<27年度の取り組み>

- 児童虐待の防止等を目的に地域と協働した子ども家庭支援事業を実施し、地域で気軽に子育ての不安や悩みを相談できる環境づくりを推進した。
 - ① 家庭児童相談員等が子育ての駅や子育て支援センター等で、家庭児童相談室等のPR、グループミーティング、個別相談を行った。(250回)
 - ② 家庭児童相談員等が各地区民生委員・児童委員協議会や乳幼児健診等の会場に出向き、地域の見守り体制周知や育児等に関する相談に応じた。(29回)
 - ③ 民間企業に出向き、児童虐待防止の啓発活動を行うとともに、子どもとの関わり方についての研修会を行った。(6回)
 - ④ さいわいプラザや支所地域の会場で、子育てで生じるストレスとの上手なつきあい方について、子育て中の母親を対象に講座を実施した。(17回)
- 長岡市要保護児童対策地域協議会の関係機関が連携して、保護等が必要な子ども等に対し、適切な活動を実施した。

- ・虐待に関する相談 141 件
- ・虐待以外に関する相談 165 件

○柿が丘学園で、障害児通所支援等の利用に必要な支援利用計画を作成する相談支援を行った。

- ・相談件数 計画作成 27 件・モニタリング 176 件

<成果及び今後の取り組み等>

- 相談員が子育ての駅や地域子育て支援センター等への訪問を行うことで、気軽に子育ての不安や悩みを相談できる機会を提供することができた。
- 家庭の抱える様々な問題の多様化・複雑化に適切に対応していくため、各地域の関係団体との連携協働によるネットワークづくりを推進しながら、今後も子ども家庭支援事業を充実させていく。

【家庭・地域の子育てを支援する相談体制の整備②(担当:子ども家庭課)】

<27年度の取り組み>

- 配慮を要する児童に早期に気づき、就学前から就学後まで継続した計画のもとに保護者・園支援を実施した。
- ① 園から提出された「相談依頼票」に基づき、園を訪問し支援するとともに、必要に応じ保護者面談や専門機関との連携を図った。
- ② 就学支援の充実を図った。
 - ・「すこやかファイル」作成の支援と小学校への引き継ぎ支援
 - ・「就学支援シート」作成の支援・啓発
 - ・「個別の指導計画」作成の支援
 - ・専門相談員（教育委員会が依頼する小中学校の教員）とすこやか応援チームとの連携を図り就学支援を行った。
- ③ 「個別の指導計画」の様式をより記入及び活用しやすくするため、実際に使用する園職員の意見を基に改訂した。
- ④ 保護者の子育てに関する相談を実施した。
- ⑤ 発達障害に関する理解と支援のために、保育士・幼稚園教諭・保育教諭・保健師・関係職員のほか、在園児の保護者（児の障害の有無に関わらず）にも対象を拡大し研修会を計画、実施した。

参加者 270 人 （内 保護者 52 人参加） 参加施設数 75 か所

<成果及び今後の取り組み等>

- こどもすこやか応援チームがかかわったケース
 - ・支援を行った施設数 60 施設
 - ・支援を行った児童数 127 人
 - ・すこやかファイル作成数 36 人
 - ・個別の指導計画作成者数 54 人
- 就学に関する支援が定着し、小学校と園との連携が強化された。

- 「すこやかファイル」の主旨や有用性が、小学校にも浸透したことで、ファイルの引き継ぎがスムーズになり、保護者の学校生活への不安が軽減された。園への啓発が浸透し作成や引継会は園主導で実施することができた。今後も「すこやかファイル」の活用を関係機関と進めていく。
- 就学支援シートの啓発が各園に浸透したことで有用性を理解し、必要な児童について積極的に保護者と作成し、就学先へと情報提供するようになった。
- 支援者と保護者が対象の研修会は、保護者の参加が前年度の2倍となった。当事者の保護者だけでなく、その他の保護者にも参加を促せるよう広報し、「心のバリアフリー」を促進していく。

【保育サービスの充実（担当：保育課）】

<27年度の取り組み>

- 保護者の子育てと就労との両立を支援するために、各種特別保育を実施した。
 - ① 休日保育 4か所 831人
 - ② 病児・病後児保育事業 5か所 1,435人
- 給食時などにおける食物アレルギー対応として、公私立保育園・幼稚園の全園児を対象とした食物アレルギーの状況を調査するとともに、保護者と連携し、医師の指示に基づき、可能な範囲で除去・代替食を実施した。
- 保育士、調理師、行政関係職員を対象にした研修会を開催し、食物アレルギーの概要と緊急時の対応について正しい知識の普及に努め、アドレナリン自己注射薬（エピペン）の実践訓練も実施した。
 - ① 全体研修会（医師による講演）3回 869人（学校職員等含む）
 - ② 長岡市立保育園幼稚園食物アレルギー対応研修（事例検討・意見交換）1回 66人
 - ③ 園内研修（園長・看護師による講義）随時開催

<成果及び今後の取り組み等>

- 各種特別保育事業を実施することで、より安心して子育てができる環境を整備することができた。
- 子育ての主体は家庭であり、親と子が共に育つことを支援するという視点を大切にしながら、今後も保育需要に対する適切なサービスの提供に努める。
- 食物アレルギーへの適切な対応策を普及するため、平成28年度も引き続き各種研修会を開催する。

【子育てを支援するサービスの拡充①（担当：子ども家庭課）】

＜27年度の取り組み＞

○仕事と育児を両立するため、児童館・児童クラブ及びファミリー・サポート・センターを運営した。

児童館 39 か所・年間利用者 延べ 138,263 人

児童クラブ 45 か所・年間利用者 延べ 346,834 人

ファミリー・サポート・センターのサポート活動件数 5,021 件

○育児疲れの解消や保護者の急病・短時間勤務への対応等、多様化する保育ニーズに対応するため、2か所の子育ての駅で一時保育事業を実施した。

まちなか保育園（子育ての駅ちびっこ広場） 年間利用者数 1,539 人

せんしゅう保育園（子育ての駅てくてく） 年間利用者数 1,569 人

○発達が気になる子どもやその家族を支援するため、児童福祉法に基づく通所支援の利用に関する相談やコーディネートを実施した。

児童発達支援事業所 4 か所・ 62 人

放課後等デイサービス事業所 6 か所・ 122 人

保育所等訪問支援事業所 1 か所・ 5 人

※人数は通所受給者証交付数（平成 28 年 3 月 31 日現在）

※事業所は長岡市内のみ

＜成果及び今後の取り組み等＞

○ファミリー・サポート・センター登録会員の拡大を図るため、事業のPR及び会員養成講習会を実施する。（平成 27 年度登録会員数 1,323 人）

○多様化する保育ニーズに対応するため、今後も一時保育事業を継続して実施する。

○今後も児童発達支援事業所や学校など関係機関と連携し、家族に寄り添った支援を行っていく。

【子育てを支援するサービスの拡充②（担当：保育課）】

＜27年度の取り組み＞

○保護者の就労形態の多様化や病気の際の保育需要に対応するため、一時保育事業を継続して実施した。

28 か所 5,619 人 ※まちなか保育園、せんしゅう保育園を除く。

○子育て中の保護者に保育園を開放し、育児相談や子育てに関する情報提供等を行う子育て支援センター事業を継続実施した。

32 か所 89,867 人

○潜在保育士（保育士資格を持ちながら、育児や転職などで一時保育士の仕事から離れている人）を対象に、再就職を後押しする保育士再就職セミナー（最近の保育事情や求人状況の紹介、就職に向けた相談会など）を新潟県保育連盟と協働で開催した。

<成果及び今後の取り組み等>

- 一時保育事業や子育て支援センター事業の充実を図ったことで、より安心して子育てができる環境を整備することができた。
- 子育てに悩んでいる親や、交流する機会を望んでいる親が集える場となるように、更にPRを行っていく。
- 保育園への入園児童の低年齢化が進む中で、子育て支援センター等のあり方について検討する。
- 保育士再就職セミナーを開催し、保育士として3人の再就職につながった。

(3) 健康づくりへの支援の強化・推進

【母子保健の推進（担当：子ども家庭課）】

<27年度の取り組み>

- 出産後早期からの支援を充実させるとともに、産後ケアコーディネーターを1名配置し、妊娠期から子育て期まで切れ目のない支援を実施した。
 - ・産後ケア訪問事業【新規】 実人員16人50回
 - ・産前産後寄り添い支援事業【新規】 実人員9人38回
 - ・産後デイケア事業【新規】
 - 「ままのまカフェ」 132回実施 1,395組利用（延）
 - 産後デイケアの一む「ままりら」 187回実施 654人利用（延）
 - ・パパママサークル事業 21回実施 607人参加（父親の参加289人）
 - ・こんにちは赤ちゃん訪問事業 2,003件（実施率97.4%）
 - ・赤ちゃん相談会 1,934人（参加率95.4%）
 - ・子育て健康相談 電話相談：1,313件 来庁相談：564件
 - ・母子保健推進員活動
 - 妊婦、赤ちゃん訪問活動 3,904件
 - 子育て支援活動 311回 親子2,698組、妊婦4人、その他188人

<成果及び今後の取り組み等>

- 産後ケアコーディネーターが支援を必要とする産婦を早いうちに把握し、必要な支援を提供することで育児不安の軽減ができた。平成28年度から産後ケアコーディネーターを1名増員し、よりきめ細かく支援をしていく。
- 出産後早期の支援に注力したことで、出産直後からの母体の健康面の不安や育児・発育に関する悩みや不安が軽減された。
- 支援が必要な家庭を早いうちに把握して支援につなげることで、虐待の予防につながった。
- 母子保健推進員と一緒に事業を実施したことで、母子保健推進員がやりがいを持ち、期待されていると感じて、意欲的に子育て支援に取り組むようになり地域全体で子育てを応援しようという意識が広がっている。
- 今後も、妊娠期から子育て期まで切れ目のない支援を実施していく。

2 人材と文化をはぐくむ人間性豊かなまちの実現

(1) やる気や学ぶ意欲を引き出す教育の推進

(熱中！感動！夢づくり教育の推進)

目 標	基準値 (年度)	目標値 (年度)	平成 26 年度 達成 値	平成 27 年度 達成 値
芸術家と子どもたちが気軽に交流しながら、生の芸術にふれる機会を提供する。 【ふれ愛芸術体験事業の開催校数】	15 校 (平成 22 年度)	20 校 (平成 27 年度)	23 校	20 校
地域に開かれた学校にする取り組みを、各学校で実施する。 【保護者や地域住民が、授業又は学校行事に参加する年間の平均日数】	14 日 (平成 22 年度)	20 日 (平成 27 年度)	29 日	37 日

■施策の内容

【どの子にもわかる授業の実現①（担当：学校教育課）】

<27 年度の取り組み>

○学習指導、生徒指導等の教育活動の充実を図るため、教育活動の補助を必要とする学校に教育補助員 44 人を配置した。

小学校 26 校 (26 人) 中学校 18 校 (18 人)

○外国語を通して、国際社会に通用する表現力やコミュニケーション力を身に付けさせるため、英語指導助手 (ALT) と英語指導員 (JTL) を全小・中学校に派遣した。

小学校 低学年 4 時間 中学年 4～8 時間 高学年 12 時間

中学校 全学年 2 週間に 1 回程度

○長岡の教育が目指す「米百俵の精神」をもとにした人づくりや、教員の資質・指導力の向上を図るために、研修講座、要請研修、教育研究論文の募集、教員サポート錬成塾を実施した。

<成果及び今後の取り組み等>

○学習指導や生徒指導等において特に支援が必要な学校に対して、教育補助員を配置したことにより、個に応じたきめ細かな対応や教師が児童生徒に向き合う時間がより確保され、学習支援の充実や子ども間のトラブル等の

未然防止に効果が見られた。

- 小学校外国語活動支援のため JTL を派遣してきた。市内 5 学級を外国語活動の授業改善のためのパイロット学級とし、毎週 JTL を派遣した。単元構想による授業を基本とし、単元開発に取り組んだ。その成果を年度末に「単元、なじらね」として冊子にし全小学校に配布した。
- 教育センターでは、研修講座を 144 講座実施し、延べ 3,868 人が受講した。各学校からの依頼に基づく要請研修を 166 回実施した。教職員の資質・指導力の向上、分かる授業の実現等、学校課題の解決に関わることができた。
- 教育研究論文が 148 編応募され、5 編を優秀論文、16 編を入選論文として選考した。また、優秀論文及び入選論文を掲載した論文集を作成して配付した。各学校、教職員の今後の実践に生かせるものである。
- 教員サポート錬成塾ベーシックコース（基礎・基本）に 66 人、クリエイティブコース（応用・発展）に 42 人の申込みがあり、嘱託指導主事がマンツーマン形態で指導した。研修生が課題意識を高め、また自信を深めていた。

【どの子にもわかる授業の実現②（担当：学務課）】

＜27 年度の取り組み＞

- 小国地域から 3 小学校の統合を望む要望書が提出されたことを受け、統合に向けた準備を行い、平成 28 年度末に上小国・渋海・下小国小学校を閉校し、平成 29 年 4 月 1 日に小国小学校を開校する。

＜成果及び今後の取り組み等＞

- 今後とも学校規模適正化に向けた基本的な考え方にに基づき、地域からの要望を尊重するとともに、地域関係者への十分な説明を行い、学校規模適正化を進める。

【地域の力、市民の力を生かした教育の推進①（担当：学校教育課）】

＜27 年度の取り組み＞

- 開かれた学校づくりを推進するため、中学校区単位の地域連携フォーラムを実施した。また、第 14 回いきいき教育推進懇談会では講演と座談会を行った。
 - ・地域連携フォーラム（27 中学校区全部でそれぞれ実施）
 - ・いきいき教育推進懇談会（11 月 27 日 長岡リリックホールシアター 保護者、教職員等約 400 人が参加 講師：佐藤和也氏）
 - 講演テーマ「こんな時代だからこそ！たくましさを育むために～野球を通して教えられたこと～」
 - 座談会テーマ「今、教育や子育てに求められているものは何か？」
- 市民力・地域力を教育に生かすため、地域の団体、NPO 等が自主的に行う子どもを対象とする活動（自然体験活動、伝統文化の継承、環境美化活

動、スポーツ・レクリエーション活動等)に対し、地域・子ども元気塾事業として助成金を交付した。助成団体は、公開審査会を経て決定した。

・自然・科学・文化・芸術分野

3団体(申請4団体) 助成総額 448,000円

・スポーツ・レクリエーション分野

4団体(申請6団体) 助成総額 800,000円

○中学生が長岡市内及び近隣の高等学校等の特色を学んで進路選択に役立てることができるよう、高等学校等が一堂に会して自校の教育を説明し、学習内容を実際に体験できる「ながおかハイスクールガイダンス」を実施した。アオーレ長岡を会場としたことにより、多数の中学生や保護者が参加し大好評であった。

<成果及び今後の取り組み等>

○地域連携フォーラムは、各中学校区の実情に応じたテーマ・内容を設定することにより、幼・保、小・中学校の保護者・教職員及び地域の教育等関係者が参加し、連携意識を高めることができた。また、いきいき教育推進懇談会は、たくましさを育むために心がけるべきことに関する講演と、親と教師が本音で語り合う座談会という内容で、それぞれの立場からの意見交換ができ、これまでの教育や子育てについて振り返り、今後の教育や子育てへの意欲を持つことができた。

○地域・子ども元気塾事業では、公開審査会において申請事業の内容等を確認し、公平な審査を行うことができた。制度開始から10年が経過したことから、事業の在り方を見直し、より熱中・感動体験の機会を提供する事業を支援することができるよう、団体支援から事業支援に目的を切り替え、子どもたちに熱中・感動体験を提供する事業であるかどうかという視点に立ち、公開審査を行った。

○ながおかハイスクールガイダンスでは、中学生等市民約2,000人が参加し、進路選択の一助とするという初期の目的が達成できた。

【地域の力、市民の力を生かした教育の推進②(担当:子ども家庭課)】

<27年度の取り組み>

○「家庭で子どもに手伝いをさせよう運動」を推進するため、家庭でワクワクお手伝い通信」を発行し、役割や手伝いを継続的に実施することの有用性や必要性についての周知を図った。また、小中学生を対象に、「家庭でワクワクお手伝いポスターコンクール」を実施するとともに、運動の推進週間には、ポスターコンクール展示会を開催し啓発に努めた。

○小学校就学前の子どもを持つすべての保護者に、家庭教育等に関する基本的な事項を伝えるため、保護者が集まる機会を活用し、指導主事等による「就学時家庭教育講座」を実施した。

＜成果及び今後の取り組み等＞

- 「家庭でワクワクお手伝い通信」は年4回発行し、すべての小学校、中学校、保育園、幼稚園の児童・生徒の保護者に配付した。通信を定期的に発行することで、家庭での手伝いの有用性を継続的に周知することができた。また、「家庭でワクワクお手伝いポスターコンクール」は、合計188点の出品があり、審査会で選考した40点をさいわいプラザ、アオーレ長岡で展示した。
- 「就学時家庭教育講座」は希望する学校すべてに実施した(全59校中56校)。家庭教育の基本的な事項や学校との関わりなどについて、保護者の理解を深めることができた。

【熱中・感動体験の充実①（担当：学校教育課）】

＜27年度の取り組み＞

- 子どもが夢中になる、感動する、夢につながる活動を充実させるために、熱中・感動体験活動（全53事業）を4つに体系化して実施した。
 - ・個性・能力を伸ばす事業 23事業
 - ・感性・情操を豊かにする事業 8事業
 - ・地域・自然を愛する心を育む事業 15事業
 - ・社会の一員としての意識を高める事業 7事業
- 熱中！感動！夢づくり教育の取組を市民等に周知するため、パンフレットを作成・配布したり、「学校・子どもかがやき塾 夢企画」の取組事例と「教員サポート錬成塾」を取材し、番組を作成しケーブルテレビで放送したりした。

＜成果及び今後の取り組み等＞

- 「中学生総合文化祭ながおか夢フェスタ」を11月21日にアオーレ長岡アリーナで開催した。昨年度より2校多い13校約491人の中学生が参加した。総合的な学習の時間の発表や創作ミュージカルが加わり、より多彩な発表となった。参加した中学生、保護者を含め約1,500人が来場し、文科系部活動（合唱、和太鼓、吹奏楽等）や日頃の学習の成果を知ってもらうことができた。
- 「ながおか未来塾」を1月23日、24日にアオーレ長岡市民交流ホール、東泉閣を会場に開催した。37名の参加があり、堀敏彦さん、商工会議所会頭、長岡市国際交流センター長らの「志」講話や技大の留学生を招いたワークショップを通して、志について具体的に考える研修となった。
- 「夢づくりスポーツ推進事業」では、対象を市内在住の全小・中学生に拡充し、28種目の競技団体から状況に応じて選択できるスポーツに親しむきっかけづくりの場と専門性の高い指導者から高度な指導を受ける機会を設定した。各種目に3,936人が参加し、幅広くスポーツに親んでもらうことができた。

- 「長岡企業から世界を学ぼう」では中学校4校で、実際に海外で活躍している講師から実体験をもとにした話を聞く講演会を実施した。約550人の中学生が話を聞く中で、グローバル社会を生き抜く「志」について考えるよい機会となった。
- 熱中！感動！夢づくり教育の取り組みを教育関係者・保護者等にパンフレットや広報番組を通じて広く周知することで、市の目指す教育について理解・関心を深めることに効果があった。

【熱中・感動体験の充実②（担当：教育総務課、中央公民館）】

<27年度の取り組み>

- 9月12日にさいわいプラザ各課による教育、健康分野のイベント「さいわいプラザフェスティバル」を開催し、約2,800人が来場した。

【主な内容】

- ・教育センターによる理科の実験
- ・ポニーの乗馬体験
- ・給食の人気メニューの試食
- ・クイズラリー
- ・宮本保育園児の手話による長岡市歌発表
- ・ケヅメリクガメとあそぼう

<成果及び今後の取り組み等>

- 長岡市教育委員会の取り組みを広く市民に周知することができた。
- 今後も機会をとらえて、教育委員会の取り組みをアピールしていく。

【幼稚園教育・高校教育の振興と就学支援①（担当：保育課）】

<27年度の取り組み>

- 私立幼稚園に在園する園児の保護者の経済的負担の軽減を図るため、各世帯の所得状況に応じて保育料及び入園料の一部を国と市で補助した。また、園児の保護者に対し、市単独で私立幼稚園就園費助成金を支給した。

① 私立幼稚園就園奨励費補助金（入園児に対する支給割合 85.95%）

支給対象者 685人 補助金総額 88,843千円

② 被災幼児就園支援事業補助金（東日本大震災により、長岡市に避難している幼児）

支給対象者 1人 補助金総額 272千円

③ 私立幼稚園就園費助成金（市単独助成分）

支給対象者 742人 助成金総額 12,524千円

- 長岡市内の私立幼稚園に対し、幼稚園教育の振興や経営の健全化を図るため、次のとおり運営費等の補助を行った。

① 運営費等補助 17園 補助金総額 14,153千円

② 預かり保育推進事業費補助 15園 補助金総額 2,208千円

③ 障害児教育費補助 5園 補助金総額 1,715千円

<成果及び今後の取り組み等>

- 財政的支援を行い、幼稚園教育の振興及び障害児教育の充実等が図られた。
- 今後も私立幼稚園教育の振興を図るとともに、保護者の経済的負担軽減のため支援を実施していく。

【幼稚園教育・高校教育の振興と就学支援②（担当：学務課）】

<27年度の取り組み>

- 小・中学校への就学に際し、保護者の経済的負担を軽減するため、所得状況に応じて学用品費等の支援を行った。

① 就学援助費

支給総額 300,260 千円

② 特別支援教育就学奨励費

支給総額 17,041 千円

- 長岡市内の私立高等学校3校に対し、運営費を補助した。

補助金総額 18,858 千円

- 私立高校就学者の保護者の経済的負担を軽減するため、学費の助成を行った。

助成金総額 9,878 千円

<成果及び今後の取り組み等>

- 今後も小・中学校就学における保護者の経済的負担軽減のための支援を継続して行う。また、平成28年度から就学援助費の受給対象者の拡大と支給額の引き上げを実施していく。
- 私立高校就学者の保護者に対する経済的負担軽減及び私立高等学校の健全経営のための支援を継続していく。

(2) 子どものサポート体制の充実

目 標	基準値 (年度)	目標値 (年度)	平成26年度 達成値	平成27年度 達成値
問題行動、いじめ・不登校、児童虐待などについて、関係機関などの連携による予防・対応を推進する。 【不登校児童生徒発生率】	小学校 0.26% 中学校 2.19% (平成21年度)	0.20% 2.00% (平成27年度)	小学校 0.39% 中学校 2.52%	小学校 0.41% 中学校 2.37%

一人ひとりの進路実現に向けて総合支援学校高等部生徒の現場実習受入れ事業所数を増やす。 【総合支援学校高等部生徒の現場実習受入れ事業所数】	29 か所 (平成 22 年度)	40 か所 (平成 27 年度)	64 か所	64 か所
---	---------------------	---------------------	-------	-------

■施策の内容

【生徒指導の充実（担当：学校教育課）】

<27年度の取り組み>

○「長岡市いじめ防止基本方針」に基づき、全市立学校で「学校いじめ防止基本方針」を策定した。「子どもふれあいサポート事業」をいじめの防止等及び対応のための組織として位置付けた。

○「子どもふれあいサポート事業」において、いじめをはじめとする問題行動・不登校・児童虐待など、子どもをめぐる様々な問題への対応を実施した。

① サポートチームの活動 38 ケースに対応

・サポートチーム会議（複数機関との連携） 16 件

・サポートチーム会議（要対協との連携） 22 件

② 子どもサポートコール相談件数 112 件

③ 適応指導教室(長岡フレンドリールーム、栃尾やまびこルーム、寺泊はまちゃん教室、おぐに日だまりルーム)の設置及び訪問相談員(2人)の派遣

④ 心ふれあい相談員の学校への派遣 21 人を 33 校へ派遣

○いじめ、不登校、対人関係や学習・行動の問題、就学や家庭における養育の問題、心身に障害のある児童生徒の指導などについて対応を図るために、面接相談、電話相談、学校支援訪問を実施した。

・面接相談 2,586 回 ・電話相談 1,074 回 ・学校支援訪問 192 件

<成果及び今後の取り組み等>

○各校の「学校いじめ防止基本方針」の取り組みの点検と見直しによる成果と課題をもとに、「いじめを生まない・いじめを絶対に見逃さない」意識を醸成してきた。いじめの認知件数は減少傾向にあり、各校のいじめ防止の取り組みは着実に成果を上げている。

○子どもふれあいサポート事業をネットワークよく行うため、複数関係機関との連携を図る支援（サポートチーム会議）のほかに、単独関係機関との

- 連携により対応するケースをサポートチーム活動として実施した。これらにより、困難な事例に対して、各関係機関がより専門的な立場でかわり、明確に役割を分担することで、迅速で適切な対応が取れるようになった。
- 適応指導教室では児童生徒の状況に応じて、学習以外にも体験活動や人間関係づくり等の多様な活動を行い、児童生徒の適応を促す援助ができた。更に各学校との連携を深め、適応教室への通級や訪問相談につなげたい。
 - 「平成 26 年度児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」において、長岡市におけるいじめ・暴力行為等は、全国や県の発生率を下回っている。不登校については、中学校が全国や県の発生率を下回っているが、小学校は県の発生率を 0.1% 上回った。不登校の児童生徒一人一人に合った適切な対応を進めていく。また、これらの問題に対しては「未然防止、早期発見、即時対応」の 3 つの視点から今後も継続的に取り組み、保護者、学校、保育園等の教職員と連携して児童生徒への質の高い対応に努めていく。

【特別支援教育の充実（担当：学校教育課）】

<27 年度の取り組み>

- 特別な教育的支援を必要とする児童生徒への支援を充実させるため、介助員等の人的支援や特別支援学級の新増設等環境整備の充実を図った。
 - ① 総合支援学校への介助員・作業支援員・看護師の配置
介助員 22 人、作業支援員 7 人、看護師 2 人、代替看護師 2 人
 - ② 特別支援学級への介助員の配置 51 校 87 人
 - ③ 通常学級への特別支援介助員の配置 23 校 26 人
 - ④ 特別支援学級の新増設 小学校 7 学級 中学校 1 学級
- 幼保小中が連携して保護者との合意を重視した就学相談を行うため、各中学校区に 1～3 名の専門相談員を依頼し、専門相談員が中心となった就学支援の充実を図った。
 - ① 専門相談員の依頼 92 人
 - ② 特別支援学級等への就学に関する相談件数 301 件（前年度 295 件）

<成果及び今後の取り組み等>

- 介助員等の配置や特別支援学級の新増設により、特性に応じたきめ細かな指導・支援を行い、自己肯定感を高めるとともに、基本的な生活習慣の定着、コミュニケーションや社会性の向上等の成果が見られた。
- 通常の学級に在籍する特別な支援を必要とする児童生徒は増加傾向にあることから、特別支援学級未設置校への設置や発達通級指導教室未設置地域の解消に向けて、計画的に進めていくよう努める。
- 総合支援学校の高等部を分離本校化し、平成 27 年 4 月に長岡市立高等総合支援学校として開校した。開校式の実施、新校歌・校章も完成し、学校職

員の意識の向上や地域への情報発信に成果をあげた。校長をはじめとする新体制での運営面、生徒指導面においても迅速な対応ができ、効果をあげている。

- 教育、福祉、医療、労働をつなぐ拠点としての総合支援室においては、専門の嘱託員2名が教育活動との密接な連携を図りながら、関係機関と協力して卒業生を含めた児童生徒の生活支援・就労支援の充実に努めている。年間に延べ1,000件以上の相談を実施し、年2回の「生徒の自立を考える連絡協議会」では校外参加者が100名以上にも及び、ネットワークを広げている。

(3) 青少年の健全育成活動の推進

目 標	基準値 (年度)	目標値 (年度)	平成26年度 達成値	平成27年度 達成値
青少年たちが、身近な地域の伝統芸能や歴史、文化、自然などにふれあう機会を増やす。 【子どもふるさとふれあい広場事業申請件数】	145件 (平成22年度)	170件 (平成27年度)	164件	178件
街頭育成活動に参加する育成員の参加率を高める。	77.1% (平成21年度)	80.0% (平成27年度)	82.4%	85.6%

■施策の内容

【交流・体験学習環境の充実（担当：子ども家庭課）】

<27年度の取り組み>

- 地域で組織されている青少年健全育成連絡協議会などが、子どもを対象とした活動の機会を提供する事業や地域社会で子どもを育てる機運を高める事業を活発に行えるよう呼びかけ、支援した。

<成果及び今後の取り組み等>

- 子どもふるさとふれあい広場事業の申請件数が増加しており、地域での交流・体験活動が活発に行われた。今後、地域の青少年育成団体の支援について、ほかの補助金のあり方などと併せて検討し、青少年により多くの体験活動の機会を提供していく。

【非行防止活動の充実（担当：子ども家庭課）】

<27年度の取り組み>

○青少年育成員が、街頭において、喫煙やゲーム機遊び、交通マナーなど青少年の不良行為・要注意行為に対して声かけを行い、反省を促した。

活動実施回数 331 回、参加育成員延べ人数 1,074 人、
問題行動等声かけ人数 171 人

○子どもから大人へ移行する思春期において心身のバランスを崩しやすい青少年を対象に相談を受けた。

面接 18 件、電話 105 件、メール 230 件

<成果及び今後の取り組み等>

○街頭で目立った問題行動をとる青少年が年々減少し、声かけ件数も減り続ける中、青少年の状況が把握しにくくなっている。そのため、目に見える不良行為にとどまらず、広く声かけを行い、内部に悩みを抱える青少年等への指導助言を行いながら、子どもたちの状況把握に努めた。

○小・中・高校生の保護者や学校長が活動を体験する機会を設け、家庭や地域、学校での青少年健全育成や社会全体で子どもたちを見守ることの重要性の再認識につなげることができた。

○相談内容は、複雑化・多様化しており、問題解決には長期的・専門的な対応が求められるケースもある。必要に応じて、関係機関と連携しながら、サポート体制の一層の充実に努める。

(4) 安全・安心な教育環境の整備

目 標	基準値 (年度)	目標値 (年度)	平成 26 年度 達成 値	平成 27 年度 達成 値
「地域の子どもは地域で守る」ことのできる体制を維持し、取り組みを充実させる。 【小学校区単位の「セーフティパトロール」団体への登録者数】	6,000 人 (平成 22 年度)	7,200 人 (平成 27 年度)	7,616 人	7,797 人
市立小・中・総合支援学校の校舎・屋内運動場の耐震化率を高める。	77.0% (平成 21 年度)	100.0% (平成 27 年度)	96.8%	100.0%

■施策の内容

【子どもの安全確保を図る体制の充実（担当：学務課・学校教育課）】

<27年度の取り組み>

- 登下校時の通学路及び校区における児童生徒の安全確保を図るため、セーフティーパトロール事業等を推進したほか、学校や警察から報告を受けた不審者情報を小・中学校及び関係機関に提供した。
 - ① 警察・道路管理者・教育委員会・学校（地域）合同の通学路合同一斉点検の実施 全小学校区（小学校 59 校区）
 - ② 通学路点検の実施 全中学校区（中学校 27 校区）
 - ③ 地域住民によるセーフティーパトロール団体数 59 団体
 - ④ 学校教育課が小・中学校、関係機関へ提供した不審者情報 21 件
- 平成 28 年度からの学校給食における食物アレルギーの原因食物の完全除去対応に向けて、栄養教諭・養護教諭等と検討会を実施して準備を進めた。
- 食物アレルギーの対応について、医師の診断による「学校生活管理指導票」の使用を開始した。
- 教育委員会主催の食物アレルギー研修会を年 3 回実施した。

<成果及び今後の取り組み等>

- 通学路の合同一斉点検により、通学路のハード面の安全対策が大きく進んだ。
- 市内 59 小学校区全区でセーフティーパトロール団体等による子どもの安全を守る活動が実施された。
- 今後も日常的に保護者と連携し、家庭での食事や学校給食等で新たに食物アレルギー症状が出た場合には、医師の指示や保護者との面談に基づき学校での対応を決定する。
- 引き続き、教職員を対象とした研修を行い、食物アレルギーに関する理解を深め、学校給食における誤食を防ぐ体制づくりと緊急時において迅速かつ適切な対応がとれるようにする。
- 平成 28 年度から食物アレルギー対応食用給食食器を統一した基準で購入して使用することにより、給食の安全性向上に努めていく。

【防災・防犯等の安全教育の充実（担当：学校教育課）】

<27年度の取り組み>

- 平成 23 年度に作成した防災教育用パンフレット「自然災害に学ぶ」及び指導資料集を活用し、すべての学校で防災教育に関わる授業を 1 時間以上実施した。
- その他の取り組み
 - ・各学校で作成した通学路安全マップの改善と活用：全小中学校
 - ・一工夫した実効性のある避難訓練の実施：全小中総合支援学校

・不審者侵入等を想定した防犯訓練、防犯教室の実施：全小中総合支援学校

<成果及び今後の取り組み等>

- 小学校の避難訓練では、保護者への引渡しもしくは引渡しを想定した訓練を52校で実施した。
- 中学校では、昼休みなどに予告なしの避難訓練を実施したり、障害物などにより避難しづらい状況をつくり、実効性のある避難訓練を実施した。
- 今後、地域と連携した避難訓練の実施と、地域の防災訓練への積極的な参加を促していく。

【学校施設における安全性の確保（担当：教育施設課）】

<27年度の取り組み>

- 小学校7棟、中学校3棟の耐震化工事を実施した。

<成果及び今後の取り組み等>

- 平成27年度で、校舎及び屋内運動場の構造体の耐震化率100%を達成した。今後は、校舎内の吹抜け多目的ホール等の非構造部材（吊り天井）の耐震化を推進していく。

(5) 市民主体の生涯学習の推進

目 標	基準値 (年度)	目標値 (年度)	平成26年度 達成値	平成27年度 達成値
生涯学習によるまちづくりを推進するため、生涯学習をする人を増やす。 【1年間に生涯学習をした人の割合】	35.9% (平成22年度)	45.0% (平成27年度)	61.6%	—
生涯学習を通じて身に付けた知識や技能などを家庭・職場以外で役立たせる人を増やす。 【生涯学習による成果を地域などで活用した人の割合】	13.0% (平成22年度)	25.0% (平成27年度)	12.5%	—

市民が市内の図書館を利用する機会を増やす。 【市民1人当たり年間図書館資料貸出数】	6.4点(冊) (平成21年度)	6.7点(冊) (平成27年度)	6.20点 (冊)	6.40点 (冊)
--	---------------------	---------------------	--------------	--------------

■施策の内容

【多様な学習機会の充実①(担当：中央公民館)】

<27年度の取り組み>

- 「親も育つ子育てセミナー」を開講した。幼児及び小・中・高校生をもつ親が、さまざまな子育ての課題にどう対応するかを学ぶ講座として3コース23講座を開催し、延べ599人が受講した。
- 「公民館趣味の教室」を開講した。焼物や書道、俳句など13講座22コースについて、延べ12,950人が通年で受講した。
- 「生涯学習推進大学」第6期の後期を開講した(計15回)。各地域のコミュニティセンターや公民館における生涯学習の企画運営リーダーを養成し、49人が修了した。
- 夜間講座「ゆうどきスクール」を開講した。料理や華道など4講座8コースについて、延べ2,216人が受講した。
- 定年男性の新たな仲間・居場所づくりのきっかけとなる5回連続講座「非日常大人スタイル」を開講した。延べ78人が受講した。

<成果及び今後の取り組み等>

- 「親も育つ子育てセミナー」は、早々に定員に達するなどニーズが高く、アンケートからも全ての参加者から「役に立った」「新たな仲間ができた」などの好評を得ている。一方、半数以上から子どもの保育希望があるため、保育体制を拡充するなど、気軽かつ安心して参加できるよう努める。
- 「公民館趣味の教室」の受講生は高齢者が主であり、高齢者が定期的に出かける場となることで孤立化・無縁化を防ぎ、かつ仲間づくりに繋がるなど、“心の健康”の場としての機能があると考えられる。一方、講師の高齢化や、参加者の固定化により新規参加がしにくいなど、講座長期化に伴う課題がある。「ゆうどきスクール」も含め、自主的活動への移行など、今後のあり方について検討が必要である。
- 「生涯学習推進大学」は、「修了後も研修の機会を設けてほしい」「他の修了生の活動状況を参考にしたい」などのニーズがあるため、今年度、修了生向けの追加研修を実施する。平成16年度の開設以来、これまで314人が修了しているが、今後は人材の育成のみならず“活用”について後押ししたい。
- 定年後、地域社会からの孤立化・無縁化が懸念されるシニア男性をターゲット

ットに試行した「非日常大人スタイル」は、男性参加が4割に留まったが、参加者の6割が皆勤、出席率も8割と好評を得た。次回企画への参画を募ったところ半数が手を挙げたため、市民と協働による事業として実施できるように、試行を継続したい。

【多様な学習機会の充実②（担当：中央図書館）】

＜27年度の取り組み＞

- 文化講座、講演会、美術センター自主企画展など年間を通じて多彩な行事を行った。また、セミナーの開催や関連コーナーの充実など、ビジネス支援サービスに継続して取り組んだ。
- 図書館システムの新規サービスであるSDI（新着図書お知らせメール）システムの活用や、インターネットサービスのPRチラシの配布などにより、新システムの周知及び利用促進を図った。
- 文書資料室では、長岡市災害復興文庫の運営・充実に取り組み、国立国会図書館のデータベースに中越大震災の写真資料を掲載したほか、協働で事業に取り組んできた長岡市資料整理ボランティア発足10周年を記念し、上越市と十日町市のボランティアとの交流研修会、災害復興文庫展2016、活動報告会を開催した。また、古文書解読講座をリニューアルし、「古文書のいろは」（全4回）、「古文書に見る長岡のすがた」（全6回）を開催した。
- 栃尾美術館では、開館20周年を記念し、特別展、20周年記念とちびまつり、特別展関連イベントを開催するとともに、造形講座・ワークショップなど、年間を通してイベントを企画・開催した。

＜成果及び今後の取り組み等＞

- 「合併10周年記念郷土長岡を創った人びと展 中央図書館所蔵資料を中心に」では、13日間で2,075人の入場があった。今後も各年代層に配慮し魅力ある展示会を企画したい。
- 10年振りに図書館システムの更新を行ったが、8月まで運用トラブルが続き貸出冊数は昨年度比2%増、予約冊数は1%増にとどまった。引き続き、図書館利用術などのPRに努めたい。
- 長岡市商店街連合会の「まちゼミ」連携コーナーの設置や市内施設のイベントに合わせたテーマ図書展示を行い市民に本との出会いの場を提供した。
- 資料整理などに延べ248人の長岡市資料整理ボランティアが参加したほか、長岡市災害復興文庫の運営で連携している「ひなぎく」には、市内小・中学校の協力で約2,000点のデータを掲載した。引き続き全国の関係機関・団体と連携して、長岡市災害復興文庫の充実に努めたい。
- 栃尾美術館の観覧者数は前年度比40%増の12,355人であった。このほか関連イベント・講座・ワークショップには、前年度比50%増の約3,000人の参加があった。市内外における知名度も上がってきたと思われるため、

引き続き、親しみやすく誰もが楽しめる地域の美術館となるよう、魅力的な展覧会やイベントを企画し、地域と連携しながらPRの強化に努めたい。

【多様な学習機会の充実③（担当：科学博物館）】

＜27年度の取り組み＞

- 年間を通じて、科学博物館や馬高縄文館・寺泊水族博物館などで、市民を対象とした普及活動を実施した。
- 科学博物館や馬高縄文館で小・中学校等に学芸員を派遣する事業を企画し、多くの小・中学校等から活用された。
- 「バスで行く科博見学・体験学習」を新規に実施し、小中学生の学習機会を増やすことに努めた。

＜成果及び今後の取り組み等＞

- 科学博物館では、約 33,000 人の来訪者から利用していただいた。
- 体験学習会の機会を増やし、市民が博物館を気軽に利用する機会を増やす。
- 科学博物館のHPを活用して、学校や子ども会などに体験学習等の事業を紹介する。
- 時宜に応じた特別展や講演会を開催し、市民が博物館に足を運ぶ機会を提供する。

【生涯学習支援体制の整備①（担当：中央公民館）】

＜27年度の取り組み＞

- 生涯学習人材バンク「まちの先生」を引き続き開設し、歴史やスポーツ、パソコンなど幅広く生涯学習を支援できる方を登録し、ニーズに合わせた紹介を行った。（平成 27 年度末現在の登録数 244 人・団体）
- 「生涯学習ガイドブック～団体・サークル編～」への登録や紹介を引き続き行った。（平成 27 年度末現在の登録数 778 団体）

＜成果及び今後の取り組み等＞

- まちの先生の活用促進のため、他自治体の事例を参考にしながら、PRの強化に努める。

【生涯学習支援体制の整備②（担当：中央図書館）】

＜27年度の取り組み＞

- ホームページをリニューアルし、検索機能の充実やメールでのお知らせ機能、貸出履歴保存機能を追加した。
- 各図書館にセルフ貸出機を導入、利便性の向上を図った。
- 自習コーナーにフリースポットを設置し、無線LANでインターネットに接続できる環境を整備し、利用者の利便性向上を図った。また、自習室及び自習コーナーの机に間仕切りを設置し、利用者のプライバシー保護を図

った。

<成果及び今後の取り組み等>

- Web 予約件数は前年比4%増であった。今後とも、新サービスの紹介や各種情報発信に努めたい。
- セルフ貸出機は、予約図書の出借ができないなど利用が限定されているが、子どもたちには好評である。今後、更なる利便性の向上のため、電子書籍や読書通帳、ICタグを使用した自動貸出機など、新しいサービスの導入を研究・検討したい。

【生涯学習支援体制の整備③（担当：科学博物館）】

<27年度の取り組み>

- 馬高縄文館で、縄文土器（火焰型土器等）の精緻な修復を行い、展示内容の向上をはかった。また、史跡馬高・三十稲場遺跡のある関原地区と連携して、縄文まつりを開催した。
- 科学博物館・長岡藩主牧野家史料館に、展示ケースの増設、展示物の新規制作などを行い、設備や環境を整備した。

<成果及び今後の取り組み等>

- 馬高縄文館や史跡馬高・三十稲場遺跡での事業や活動を通して、長岡の歴史的遺産である火焰型土器や縄文文化を活用・発信することができた。今後も継続して広く市民にアピールできるよう努めたい。
- 来館者の反応に目を向けながら、科学博物館と長岡藩主牧野家史料館を学習意欲の増進につながる施設整備に努めていく。

(6) 歴史的・文化的遺産の継承及び活用促進

目 標	基準値 (年度)	目標値 (年度)	平成 26 年度 達成 値	平成 27 年度 達成 値
歴史的価値が高い建造物の実態把握・保存を進め、教育や地域振興に活用できる機会を増やす。 【市内に所在する歴史的価値が高い建造物の国登録文化財登録件数】	21 件 (平成 21 年度)	26 件 (平成 27 年度)	31 件	32 件

地域に伝わる民俗 芸能の適切な保存 に努め、後世に伝承 される機会を増や す。 【記録保存用にビ デオ収録した民俗 芸能の演目数】	186 演目 (平成 21 年度)	201 演目 (平成 27 年度)	194 演目	202 演目
--	----------------------	----------------------	--------	--------

■施策の内容

【歴史的・文化的遺産の継承と保存・管理（担当：科学博物館）】

<27 年度の取り組み>

○長岡造形大学へ委託し、栃尾地域と川口地域にある歴史的建造物 5 件の詳細調査を行った。また、中之島・三島・寺泊・与板地域の郷土民俗芸能保存団体 4 団体の 8 演目をビデオ撮影し、記録保存に努めた。

<成果及び今後の取り組み等>

○長岡市内の歴史的建造物悉皆調査により得られた各地域に所在する物件の基礎データを基に、主要な建物について詳細調査を行った。平成28年度に、その成果をまとめた報告書を刊行する。今後は、そのデータを活用し明確な基準をもって登録有形文化財に推薦していく。

【歴史的・文化的遺産の活用（担当：科学博物館）】

<27 年度の取り組み>

○郷土民俗芸能公演会の場で、多くの市民に郷土民俗芸能を公開することができた。

<成果及び今後の取り組み等>

○郷土民俗芸能を公開したことで、多くの市民にその魅力をアピールすることができた。

○今後も郷土民俗公演会を継続して開催するとともに、過去に撮りためられた民俗芸能の記録を公開しやすい形式に変換し、市民が活用できるようにする。また、合併前に撮影された民俗芸能の記録の集約を行う。

平成 28 年 8 月 17 日

長岡市教育委員会
教育長 高橋 譲 様

長岡市教育委員会事務評価委員会
委員長 結城 和 廣
副委員長 青柳 良 一
委員 江口 由美
委員 高野 真規

教育に関する事務の管理及び執行の点検及び評価について

平成 27 年度に執行された長岡市教育委員会の会議、施設訪問、事務事業の内容及びその点検結果について、教育委員並びに事務局職員からヒアリングを行い、長岡市教育委員会事務評価委員会として点検、評価を行った。

当委員会の点検、評価結果については以下のとおりである。

●全体を通しての意見

○長岡市教育委員会は、課題解決に向け、全般にわたってきめ細かな取組を行っている。教育振興基本計画の最終年度の目標達成状況は、おおむね評価でき、成果が上がっている。しかし、指標とした目標を達成したからとって、施策で目指した願いが実現したか判断できない項目もある。市民の満足度調査での比較などを取り入れ、妥当性の高い評価と改善を進めていく必要がある。

○開かれた教育委員会の具現に向け、市民目線やニーズを大切にしながら事業を進めている。また、様々な機会、メディアを利用した広報が展開され、市民に長岡の子育てや教育の充実が伝わってきていると感じる。子どもたちにとっては、市報や新聞等の記事で取り上げられ、一層の自信に繋がっている。

○「熱中！感動！夢づくり教育」や「子育ての駅」など、教育や子育てに向けた様々な施策が実施され、「米百俵のまち」「子育てしやすいまち」が具現化されてきている。

○人間的な魅力溢れる教員の育成と教員の多忙化への対応は、関連があると考えられる。今後も各種研修や学校現場の業務適正化等を通して、魅力ある教員を長岡の地で育ててほしい。

○多岐にわたり、きめ細かな支援ができています。特に、子どもが生まれてから切れ目のない支援が行われていること、保育園と小学校との連携がとれていることは評価する。市民とともに魅力ある長岡を創っていけるよう、市民力を活用できる周知方法を工夫する必要があります。

●各施策についての意見

I 教育委員会の開催及び審議状況等について

教育委員が事務局の用意する資料や説明を受けて審議するのではなく、積極的に施設訪問をし、児童生徒、教職員に会うことを大切にしている。また、教育委員会の様々な事業を実際に見たり、参加した上で審議を行っており、その姿勢を評価する。学校や施設訪問を可能な限り拡大し、現場で働く人の状況や課題を吸い上げ、タイムリーに事業改善に繋げてほしい。

「長岡市総合計画」「長岡版総合戦略」「教育大綱」が策定され、子育て支援・教育の充実を最重要課題の一つとする市の大きな方向性が明確になった。これを受けて教育委員会がどのように具体的な事業を展開していくか、平成 28 年度以降の取組を期待する。

Ⅱ 教育委員会における事務の点検・評価について

1 生涯健やかで、いきいきと暮らせるまちの実現

(1) 子育てを応援する環境の整備

「長岡市子育て・育ち“あい”プラン」(平成27年度～平成31年度)の策定により、長岡市の子育て支援事業の方向性を明らかにしたこと、子どもを産み育てる人にとって、長岡を住みたい・子育てしたいまちにするという市の方針を具体的な形としたことは評価できる。

地域版子育ての駅が開設されたことで、相談・支援体制がより整備され、子育てコンシェルジュの配置により、きめ細かな支援が可能となった。しかし、子育ての駅だけでなく、地域での子育てを充実させていくためには、親子サークルの存続は重要である。次のリーダーや新しいメンバーを発掘するなど活動の継続に向けての検討が課題となる。

小規模保育施設の整備に財政的支援を行い、全体として定員増加に繋がった点は評価できる。今後も計画的な施設の整備が望まれる。

放課後発達支援コーディネーターの配置により、支援を必要とする児童の預かり体制が充実した。引き続きの支援が望まれる。

(2) 子育て支援サービスの拡充

積極的に地域に出向き、関係機関と連携し、子育ての不安や悩みに対応した相談体制が充実、推進されており、子育てしやすい環境が整えられている。また、配慮を要する児童への就学支援として、すこやかファイルの作成等切れ目のない支援が図られている。

各種特別保育が実施され、多様化する保育ニーズに対応している。一方で、課題を抱えながらも相談の場へ足を運ぶことが難しく、各種支援・サービスを受けられない保護者もいる。母子保健推進員活動等を通して、保護者にサービスが行き渡るよう取り組んでもらいたい。また、保育サービスだけでなく、保育士の育成や潜在保育士の確保を図り、質の高い保育を継続的に実施できることが望ましい。

食物アレルギーについて、保育士、調理師、行政関係職員を対象にした研修会を開催し、周知していることは評価できる。アレルギー児やその保護者以外の理解も望まれるため、例えば、保育園の児童や保護者向けの子ども同士のおやつとの交換や小学校の児童向けの給食のアレルギーに対するルールを伝える機会を検討するなど、より広い周知が望まれる。

(3) 健康づくりへの支援の強化・準備

産前産後支援事業である産後ケア訪問事業や産前産後寄り添い支援事業、産後デイケア事業を新規に実施するなど、実情に対応した改善を図り、母子の健康づくりへの支援が強化されている。「ままのまカフェ」及び「ままりら」事業は、

母子保健推進員とともに事業を実施したことも成功の一因であろう。乳幼児の母親の健康づくりについても横の連携で受診率を上げるなど強化してほしい。

2 人材と文化をはぐくむ人間性豊かなまちの実現

(1) やる気や学ぶ意欲を引き出す教育の推進

インターネットが急激に普及し、あらゆるモノがバーチャルリアリティ（仮想現実）化される現代において、熱中したり感動したりする本物体験を重視する「熱中！感動！夢づくり教育」は、ますます重要になってくる。熱中・感動体験の充実として、各種教育プログラムが用意されており、その中から子どもたちが自分で選択して参加できることはとても良い。

魅力的で、成果を上げている施策を理解してもらうために、パンフレット等は、配布する時期・配布の仕方・配布後の聞き取りなど市民に届くよう工夫する必要がある。

教育の成否は、教員の資質によるところが大きい。教員の資質、力量、人間性の向上を図る研修会や事業が積極的に実施されており評価できる。小学校英語活動における単元開発がなされ、「単元、なじらね」が作成・配布された。今後は、活用状況や成果、課題等を把握し、一層の充実を図ることが望まれる。

「ながおかハイスクールガイダンス」は、中学校から高校へ進学することへの不安を少しでも解消することができる良い取組である。進学の前に「働く」ことが繋がるため、東中学校で行われている職業講話のように、子どもたちが長岡で働く若者の話を聞ける場が広がっていくことを期待する。

「地域・子ども元気塾事業」は、開始から10年間の経緯を踏まえ、子どもの熱中・感動体験を市民協働で提供するという趣旨に沿って、目的を団体支援から事業支援に切り替えたことは適切であった。

さいわいプラザ1階の雰囲気随分変わった。楽しい雰囲気になったという声を聞き、さいわいプラザが親しみのある場所になってきていると感じる。

(2) 子どものサポート体制の充実

生徒指導上の多様な問題に積極的に対処する体制が整えられているが、「不登校」の発生率に明るい兆しが見られない。「未然防止、早期発見、即時対応」は大前提であるが、「即時対応」においては、本人及び家族にとって一番良い支援の検討が望まれる。不登校の一時期だけでなく、その子が将来、自分の小・中学生時代を振り返った時に後悔しない過ごし方ができるような支援が望まれる。また、先進地や先進施設・体制に学ぶなど、学校・関係機関や体制・取組の評価をし、クオリティをより高める必要がある。

長岡市立高等総合支援学校の分離設立は、学校規模の適正化、小・中学校と高等学校の教育課程の違い等を考えると極めて良かった。自立や社会参加に向けた教育課程が編成され、一貫した支援が行われているため、引き続き就労まで繋げ

ていける支援を期待する。

介助員や特別支援アシスタントが各学校に配置され、人的支援の充実が図られている。今後も一層の充実が望まれる。

(3) 青少年の健全育成活動の推進

子どもを取り巻く環境の最も大きな変化がネット社会の急激な進展であり、子どもたちの心や行動に大きく影響を与えている。ネットによるいじめ、ネット依存など問題は多方面で表れている。今後も学校と家庭の連携・協力が必要な課題である。

(4) 安全・安心な教育環境の整備

食物アレルギー対応は、実態把握と分析、それを踏まえた研修等の実施が計画的になされている点は評価できる。安全性を第一に考え対応しているが、今後もアレルギーを持つ子どもと親の気持ちを酌んだ対応を期待する。

学校における構造体の耐震化が100%達成したことは評価できる。非構造部材の耐震化も計画的に進めてほしい。

(5) 市民主体の生涯学習の推進

夜間講座や定年期男性向けの講座がスタートしたことは評価できる。定年期男性の居場所づくりを通じて、今後増え続ける高齢者の生涯学習への参加を進める可能性が見えてきている。受講生を今後の講座運営に参画させ、協働で講座内容や運営方法を充実させることが大切である。循環型生涯学習社会の構築に一層の取組が必要である。

読書離れなどの要因があるにしても、図書館利用の状況が進展しない。図書館が市民生活を豊かにする機能を発揮するために、市民目線での問い直しや先進事例の分析など改善に向けた取組が引き続き必要である。民間のアイデアを参考にしながら、図書館に足を運びたいくなるような取組を期待する。

火焰型土器や縄文文化が長岡の歴史的遺産であることを馬高縄文館等の事業で発信できたことは大変良かった。対外的なシティプロモーションの中で、今まで以上に発信していくだけではなく、市民に向けて長岡ならではの自慢の品であることを伝えるよう努めてほしい。

(6) 歴史的・文化的遺産の継承及び活用促進

郷土民俗芸能公演会など、機会を捉えて市民に公開した取組や歴史的建造物の調査が着実に進んでいることは評価できる。調査・保存・管理を進めるとともに、教育や地域振興に活用する取組を少しずつ広げていくことが望まれる。